

CONCIERGE

Mochimaru shokuhin Co.,Ltd. 6/Jan/2014/vol.278



進化を遂げるトマト

トマトは、8世紀の初めにアステカやインカの人々により最初に栽培されたといわれ、今では全世界で約8千種以上、日本では190種類を超えるトマトの品種が登録されているそうです。日本ではトマトが伝わったのが17世紀半ばごろ、最初はその姿形の美しさに観賞用とされ、四代目将軍徳川家綱の絵師であった狩野探幽が「唐なすび」として描いたものが残っているそうですが、食用としては明治以降にやっと日本の食卓にも上るようになったということです。一方、今や日本でもおなじみになった長細い形のイタリアのトマト、トマトの本場とも言われているイタリアでも、最初はやはり観賞用とされていたそうです。なぜなら有毒の植物であるペラドンナの実に似ていた為だそうです、食用として普及したのは18世紀ぐらい、考えてみれば長い歴史の中でトマトの食の歴史は結構浅いということなのでしょう。しかし、今日の普及度は実に目を見張るものがあります。多くの国で多くの人々がその美味しさ、美しさ、種類の豊富さに魅了されている証拠です。イタリアのトマトは旨味のトマト、日本のトマトは甘みのトマトとも言われています。インターネットの普及によって、世界中の様々な品種の種を手に入れることができる程度可能になってきました。食の多様化は様々な食材のニーズを生み、それに応えるかのように国内で栽培されるもの(品種)も増えてきています。もしかして日本の食が進化を遂げるスピードに、きちんと追いついているのがトマト文化なのかもしれません。今後も目が離せないワクワク感を今年も是非一緒に楽しみましょう。